

高麗海運のコンテナ航路の増便について

港湾振興課

1 要旨

高麗海運（韓国）は、この度の航路改編により、4月13日（月）の便から、広島港において独自運航する韓国航路を週2便から週3便へと増便する。このことにより、広島港における韓国航路は週8便から9便へと増便となる。

2 理由

- 今回の航路改編は、航路の採算性を向上させるため、船積効率を上げる観点から、当社が独自運航する瀬戸内航路と日本海航路を再編し、貨物量が増加しており他港に比べ輸出貨物の比率が高い広島港への寄港を追加することで、従来、輸入貨物に偏重していた航路のインバランス（輸出入量のギャップ）の解消を図ったもの。
- これまで県は、昨年、高麗海運等の韓国船社が、広島港における韓国航路を減便する中、ひろしま港湾管理センターと連携して、広島港のコンテナ取扱貨物量の増加に取り組むとともに、韓国船社に対して、広島港における韓国航路の利用状況を説明するなど、航路の維持・拡充に向けて継続的な働きかけを行っていたところ。

3 高麗海運の航路改編の状況

曜日	積載量	寄港地
水	704 TEU	<u>広島(水)</u> - 釜山(木/金) - 浦項(金) - 蔚山(金/土) - 釜山(土/日) - 大阪(月) - 神戸(月) - 水島(火) - 福山(火) - <u>広島(水)</u>
木	342 TEU ※	<u>広島(木)</u> - 高松(金) - 水島(金) - 今治(土) - 釜山(日/月) - 徳山(火) - 徳島(水) - 福山(木) - 伊予三島(金) - 松山(土) - 釜山(日) - 長崎(月) - 熊本(火) - 八代(火) - 釜山(水) - <u>広島(木)</u>

※2隻を交互に隔週配船

曜日	積載量	寄港地
水	704 TEU	<u>広島(水)</u> - 釜山(木/金) - 浦項(金) - 蔚山(金/土) - 釜山(土/日) - 大阪(月) - 神戸(月) - 水島(火) - 福山(火) - <u>広島(水)</u>
木	342 TEU ※	<u>広島(木)</u> - 高松(金) - 水島(金) - 今治(土) - 釜山(日) - <u>広島(月)</u> - 伊万里(火) - 松山(水) - 舞鶴(金) - 境港(土) - 伊万里(水) - <u>広島(木)</u>
月		

- 今回の増便により当該航路の積載量は342TEU/週（33%）増加。
- 当該航路の2019年のコンテナ貨物取扱量は対前年比で15%増加。

4 今後の対応

- 当該航路の増便を広島港の更なる利用促進につなげられるよう、港湾運営会社である(株)ひろしま港湾管理センターや船舶代理店等と連携し、荷主企業に対して、当該航路サービスの利便性向上について積極的にPRを行う。
- 高麗海運をはじめとする韓国船社に対しては、引き続き、広島港における韓国航路の利用状況を説明するなど、コンテナ航路の維持・拡充に向けた働きかけを行う。
- 一方で、新型コロナウイルスによる企業活動への影響が懸念されることから、今後のコンテナ貨物の荷動きについて注視する。